



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## 消毒薬

消毒は、ウイルスや細菌などの微生物を死滅または数を減らして、病原性(微生物が感染症を起こす能力)をなくすことをいい、微生物を病原性のない状態まで減らすことを意味します。これに対して、滅菌はすべての細胞を死滅させ、無菌の状態にすることをいいます。滅菌の方法は、高圧蒸気滅菌やガス滅菌、ガンマ線滅菌などの方法があり、感染のリスクが非常に高い、血管や体の組織に直接使用される注射針などは滅菌処理されていますが、設備が必要であったり、人体に有害な物質を使用したりする必要がありま。そのため、家庭で手軽に滅菌処理をおこなうことはできませんが、消毒でも十分な効果が得ることが出来ます。

消毒薬はどの微生物に対して効果があるかによって、「高水準」「中水準」「低水準」に分類されています。

高水準の消毒薬は、グルタール、フラタール、過酢酸があり、フラタール以外は、「芽胞」という極めて高い耐久性を持った細胞構造の細菌を含む、すべての微生物に対して効果がありません。しかし、毒性が強くなり扱いに注意が必要のため、病院などで内視鏡などの体内に直接使用される機器の消毒に使われています。

中水準の消毒薬は、次亜塩素酸ナトリウム、ポピドンヨード、消毒用エタノールなどがあり、ウイルスや細菌に効果があります。しかし、ウイルスには種類によって「エンベロープ」という膜の有無によって差があり、エンベロープがあるウイルスではすべての中水準消毒薬に効果があるのに対して、エンベロープがないウイルスでは次亜塩素酸ナトリウムとポピドンヨードは効果がありますが、エタノールは効果がありません。

低水準の消毒薬は、クロルヘキシジン、グルコン酸塩、ベンザルコニウム

塩化物、ベンゼトニウム塩酸塩などがあり、一般細菌に対して効果がありません。

このように、消毒薬によって対応できる微生物に差があるため、たとえば食中毒では、夏場はO-157などの病原性大腸菌やカンピロバクター、サルモネラなどの細菌が感染源になることが多く、低水準の消毒薬でも対応できますが、冬場はノロウイルスなどのウイルスが感染源になることが多いので中水準の消毒薬を使用する必要があります。さらにノロウイルスはエンベロープのないウイルスであるため、エタノールは無効で、消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用する必要があります。また、人体に使えるか、金属に使えるかなど、使用対象物も消毒薬によって変わってくるので、説明書などをよく読んで対象物に合った消毒薬を使用することも必要です。

(北区) 薬局エビラファーマシー

松本博志